



※このチラシは沖縄県議会基本条例に基づく議員広報誌です。

沖縄戦が抜けた
「戦災調査」報告

国動き、県版「戦災史」作成へ
実った崎山議員の政治力

国がまとめた「太平洋戦争被害報告書」に、沖縄戦の記録が漏れ、国の戦争調査で沖縄戦は無かったとしていた問題について、「沖縄に対するいい加減さと差別だ」として、崎山議員らが告発、国への沖縄戦記録の掲載を強く求めていました。

これには県も動き、先月総務省を謝花副知事が訪れ要請書を手渡した際、国が県に対し「沖縄戦記録を収集した刊行物をまとめる方針」を明らかにしました。(↓新聞記事参照)



県版「戦災史」を作成するとの返事が、国からあったことが、謝花副知事から崎山議員へ伝えられた。(2月)



戦災史実の継承、風化に歯止め

唯一の地上戦で凄惨を極めた沖縄が、国の戦災調査の対象外となり、これを是正させることは、沖縄戦の歴史評価を誤らせ、戦災記録を後生に伝える上で、欠かせない重要なことです。

この問題には、いち早く崎山議員が動き、県に対し是正措置を国に要請するよう強力に働きかけていました。そして今年2月に、国が謝花副知事へ戦災記録追加作成の意向を示したことは、副知事からすぐに崎山議員へ報告され、崎山議員は「戦争の風化を防ぐ努力が実った」と喜ぶとともに、支援してきた方々からは、崎山議員の政治力が高く評価されています。



崎山議員への感謝のため、議会を訪れた元学徒の吉川初枝さん(90歳)と上原はつ子さん(89歳)。

「全学徒隊の碑」補足版設置に
90歳の元学徒が感謝の訪問

沖縄戦では多くの若い命もかりだされ、生き残った学徒の皆さんは「元学徒の会」を結成、学友戦没者数の刻銘を求めてきました。会から要請を受けた崎山議員は県議会でもたびたび訴え、強く支援。県は「全学徒隊の碑」に犠牲者を刻銘した補足版を、昨年平和祈念公園内に設置しました。「元学徒の会」の皆さんが去る2月、この刻銘版設置に尽力した崎山議員に感謝とお礼を述べようと、県議会を訪れていました。

取扱い貨物過去最高 クルーズ船寄港全国最多

崎山議員、議会議長の大役

令和2年那覇港管理組合議会2月定例会
(2月4日)

崎山議員が議長を務める那覇港管理組合議会は、去る2月4日、令和2年の2月定例会を開き、管理者(知事)の施政方針のほか、管理組合の重要事業の提案・説明に対し、審議を行いました。また、崎山議員は「タグボートに関するインフラ整備」の陳情審査において、特別委員会で発言を行いました。



県経済と物流発展に寄与

重要な議長職を担う崎山議員

伸びるクルーズ船観光、県民所得向上も

昨年の那覇港の貨物取扱量は過去最高の1307万トンを記録。クルーズ船の寄港回数も260回となり、沖縄の観光客数1千万人超えに貢献。また、今年の寄港予約もすでに319回に。県経済の発展、観光業界を活性化させて、県民所得の向上に大きく寄与しています。

今後の課題は、クルーズ船の大型化への対応、拠点港整備推進などがあげられていますが、崎山議員は県議を務める中、このような管理組合議会議長として

いわばもう一つの大役をになっているともいえ、県経済発展に寄与する役職として、大きな期待がかかります。

那覇港管理組合とは

県、那覇市・浦添市の3自治体で構成された特別地方公共団体で、組合の議会は那覇港管理組合の予算、条例等を議決し、港湾事業を決定する機関。定数は県5人・那覇市3人・浦添市2人の10人。



新型肺炎流行、沖縄観光・経済に大打撃 安心・安全なクルーズ観光の正常化を早く

管理組合
那覇港

水際対策に全力

新型肺炎の流行により、県民の不安が増していますが、那覇港へのクルーズ船寄港に対する県民のマイナスイメージがあるようです。

しかし、多くの観光客を運んでくるクルーズ船の寄港は、県経済に寄与しており、特に観光業界の期待は大きなものがあります。また、県も沖縄を世界のクルーズ船の拠点とする「東洋のカリブ海構想」の実現を県政の重要課題としています。

新型肺炎の流行は大変憂慮され、国を挙げて感染防止に取り組んでいますが、寄港回数が全国一の沖縄は、那覇港管理組合が那覇検疫所とともに、水際対策に全力をあげています。観光業界への打撃、県経済



那覇市若狭のクルーズ岸壁

クルーズ船観光は、県経済に大きく寄与している。一日も早い安全・安心のクルーズ観光の回復を

への影響を最小にし、マイナスイメージを克服して、一日も早い安心・安全なクルーズ船寄港の正常化が望まれます。



沖縄県
議会議員

サキ山嗣幸議会活動

NEWS

かけはし



平和の創造を
2020/4 NO.130

※このチラシは沖縄県議会基本条例に基づく議員広報誌です。

新型コロナ
感染症対策

危機感を持った対応を 「社民・社大・結連合」が緊急要請



地球規模で危機を迎えている新型コロナウイルス感染症で、県内でも現実に感染者数が拡大し、不安感が漂っています。

崎山議員の属する社民・社大・結連合は、去る4月10日知事に対し「危機感を持って対策を講じ、県民を守るよう」緊急に要請を行いました。

政府は全国に緊急事態宣言を出し、コロナ感染の収束を目指す対策を打ち出しましたが、沖縄県としても医療や検査の充実、暮らしや経済のため、県が取り得る施策に、危機感を持ち、命を守ることを最優先にするよう強く要請しました。

玉城知事へコロナ感染対策の強化を要請するサキ山議員

要請内容

- ◆ 空港や港での利用客の体温測定実施
- ◆ 医療従事者への強力な支援、安全対策
- ◆ 中小零細企業への損失補償、財政支援
- ◆ 営業せざるを得ない業種への積極的支援など15項目を要請
- ◆ 県外・県内の移動の自粛
- ◆ 充実した検査体制の構築

対策に万全を
コロナ感染

港湾労働者の感染を防げ 港のコロナの感染は県内物流停止の恐れ

全港湾
沖縄が
要請

去る2月17日サキ山議員は、県議会社民会派室を訪れた全港湾沖縄地本の諸見力書記長らから、外航貨物船の乗組員などが作業する那覇港で、サーモグラフィーなど防疫態勢が不十分だと、県に早急な対策を求める要請を受けました。

2月15日入港の外航貨物船の船長にコロナ感染の疑いがあり、感染症指定病院へ搬送され荷役作業が中断、機能が9時間も停止したとのこと。

サキ山議員は、港でのコロナの感染は県内物流のストップの恐れがあり、港湾労働者を守るためにも、クルーズ船に比べ不十分な貨物船の防疫強化を、県に対し強く働きかけています。



サキ山議員らは全港湾沖縄地本の諸見書記長らから要請を受けた。

コロナ対策補正、及び首里城早期復元 辺野古新基地国民的議論、北部基幹病院決議



(県議会本会議)

2020年2月定例議会は、2/24～3/27間審議し、討論し、3/27閉会した。

コロナ対策の補正予算では、170億を計上している。しかし感染者が増大していることに対し、危機感を持って、医療、検査、予防施策、経済的支援を求める発言が相次ぎ、また辺野古新基地、首里城、北部基幹病院等は、論議が交わされ、課題を残しながらも決議閉会した。

離島住民の航空路、航路の軽減、首里城復元計画と 所有権移転、街路(開南一帯)、河川(国場一帯)の促進、 沖縄水産高校の練習船建造

予算特別委員会

サキ山議員 力強い発言 (3月3日)(3月9日)



(予算特別委員会で鋭く発言するサキ山議員)

崎山議員は、予算特別委員として、県民の生活基盤の整備を強く訴え、離島住民の航空路、航路の負担軽減事業充実を求めた。航空路は約50万件、航路は約62万件の実績があり、更なる充実が求められる。

首里城は、前回の建設費用が73億円であり、今回、城郭内の費用は、議論の最中とのことである。

開南から与儀交差点向け街路工事は、1,800Mを4車線に整備し、完了は、20年中頃の予定である。

国場川の河川工事は、那覇大橋付近の掘削工事と上流の護岸工事の予定となっている。

モノレールの3両化増設は、全体で6億余を計上し、22年の供用開始を目指している。

沖縄水産高校の練習船、海邦丸5世の代船建造は699トンの大型化で40名乗船でき、22億を予算計上し、22年就航を目指している。



(教育支援課と崎山議員と末吉沖水同窓会長ら)

陳情審査では、座間味浄水場問題は、水道の広域化を目指し、離島住民の水道料金の軽減を図ろうとしているが、場所の設定を巡って難航している。しかし、やっと住民が求める高台へ調査、検討が入った。



4 期 目

2020年7月～2024年6月



平和行政・県営住宅建設を訴える

(2021年2月定例県議会)

- 米軍の低空飛行(慶良間・金武・国頭)等は許せん。
- 米軍への思いやり予算は不当ではないか。
- 沖縄金融公庫の存続を求め。
- 電気自動車への転換事業の課題は何か。
- 研究機関の役割と充実を聞く。
- 現業職員の補充を求め。
- 乳幼児の虫歯対策を聞く。
- 県営住宅の建設を求め。

質問事項



発言する崎山議員

新造船「海邦丸」4月就航

— 沖縄水産高校実習船(699トン) — 実習教官の拡充求める崎山議員



2021年2月

沖縄水産高校実習船「海邦丸」新造船、総トン数六九九トン、実習生徒六十人乗りが4月に就航する。

崎山議員は、これまで県議会において、海洋水産業を担う、船員養成教育機関の充実、さらに老朽化している「海邦丸」の代船建造を強く求めてきました。

新造船は、実習生徒も増えており、船長、機関長、実習教官の充実体制も求められております。

今回実習教官一名増が確約されました。

実習生の将来の夢を乗せてスタンバイする「海邦丸」の安全航海を祈る。

海運・水産業振興を 宮城企画部長へ要請



2021年2月5日 (企画部長室)

全日本海員組合は、海運・水産業における物資や旅客の海上輸送において、県経済と県民生活を支える役割を担っています。

漢那支部長らは諸政策への取り組みの要請を宮城企画部長に行いました。崎山議員は、政治参与として、また連携議員として、仲村議員が同席した。

沖縄戦跡から辺野古への土砂調達問題！ 崎山議員、与党県議団と共に現場を視察

政府は辺野古埋立土砂調達を沖縄戦で多くの県民が命を落とした南部から3200万㎡の大量の土砂を採取しようとしている。

特に糸満市「魂魄の塔」の横(熊野鉦山)で、遺骨ボランティア具志堅さんらが遺骨収集作業中に突然開発行為が始まりました。

具志堅さんは、戦没者への冒涇だと激しい怒りを発信しています。

崎山議員も与党県議団と共に現場視察を行い、戦没者が眠る戦跡地の国定公園を破壊し、南部からの土砂を7割近くも辺野古の海に投入することを問題視した。



熊野鉦山（魂魄の塔近く） 2021年2月22日



遺骨が発見された採石場



魂魄の塔前で説明を受ける崎山議員



南部土砂を埋め立てに使うな



崎山議員と会派は、那覇空港でのPCR検査の実態を視察（2020年8月）



スポーツ振興の立場から知事に報告
FIA-F4年間王者平良響(ひびき)選手と
崎山議員と会派役員（2021年1月8日）